

病院名称変更のお知らせ

本年(2017年)4月から、「大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療センター」は「大阪府立病院機構 大阪母子医療センター」と名称を変更しました。英語名も“Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health”から“Osaka Women's and Children's Hospital”と変更しました。大阪府立成人病センターが、本年3月の新築・移転にあたり「大阪国際がんセンター」と名称変更するのに合わせて、大阪府立病院機構の他の4センターも名称を見直そうということとしたことがきっかけでした。名称を変更することは当センターの患者さん・職員のみならず他の医療機関、そして府民の皆さまにも大切なことですので、その経緯を記します。



総長 倉智 博久

当センターの全職種の職員から挙げられた名称の中から、原則的に多数意見に従って新名称を決めました。その際、なるべく一般的で簡潔な名称とすることを心がけました。日本語表記は「大阪母子医療センター」と「大阪母子保健医療センター」が候補となりました。「保健」は当センター設立時点からの重要な理念であり、現在もそして今後も重要な事業です。しかし同時に、併設されている研究所も重要であり、様々な思いや理念の全てを名称に盛り込むことには無理があります。「大阪府立母子保健総合医療センター」は長いので不便であるという意見も多くあることも考慮し、当センター開設以来の略称である「母子医療センター」を採用することとしました。

Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Healthは当センター設立時によく考えられた名称でしたので、英語表記を変更することは難題でした。“Maternal Hospital”か“Women's Hospital”か？は最も迷ったポイントでしたが、国際的に病院名としては“Women's and Children's Hospital”が一般的であることと、当センターにもいくつかのmaternityの範疇を超えた診療(小児婦人科や不育症患者の診療、妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群患者の長期フォローや乳がんの放射線治療など)がなされていることから、“Women's and Children's Hospital”としました。

名称変更にあたって、当センター設立に向けた構想段階からの歴史を振り返りますと、改めて先人たちによる輝かしい実績を自覚させられました。今回の名称変更を吉書に新たな歴史を作っていきたいと考えています。また、地域医療連携にもますます力を入れ、「地域で頼りにされる病院」、「依頼されたら断らない病院」でありたいと考えます。

今まで以上に、皆さまのご指導とともにご支援・ご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

平成 29 年
4月1日～(変更前) 地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター(変更後) 地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

栄養管理室は、「食と栄養」をキーワードに医療を支え、患者・家族の食生活をサポートする部門です。主な業務は、入院食の提供と栄養食事指導です。

入院食 「治療」「食育」「楽しみ」の3つの要素を兼ね、様々な治療食を用意し、栄養バランスが良いことはもちろん、季節の食材をふんだんに使い、和食と洋食からの選択食(朝食のみ)、行事食、毎月の誕生日ケーキデー、産後特別食など美味しく楽しく召し上がっていただけるよう工夫をしています。

また、重症妊娠悪阻や病態によって食思不振のある患者には完全個別対応の食事提供も行っています。長期入院をされている患儿と家族を対象にした親子食事会も毎月開催しています。

栄養食事指導 年々需要が増し、2016年は小児・母性を含めて2574件の個別指導を実施しました。

小児では様々な基礎疾患を持つ患儿の栄養障害を予防・改善しながら個々の発育を支えるための指導を行っており、プラダー・ウィリー症候群、ダウン症候群の早期介入や重症心身障がい児のためのミキサー食の開発など、小児の栄養指導分野では全国でもトップレベルの先進的な取り組みを行っています。

母性については糖代謝異常妊婦の指導が最も多くなっています。

栄養管理室スタッフ



その他、食育レシピ本(こどもの心と体の成長・発達によい食事)の制作、講演会や研究発表など、院内外問わず様々な活動により、子どもの健やかな発育、ハイリスク妊婦の出産をサポートしています。

(栄養管理室 副室長 西本 裕紀子)

ホスピタル・プレイ士

の紹介

医療環境は子どもが慣れ親しんだ場所とはかけ離れています。子どもは、馴染みのない器具、機械、服装、場所を見ること、特殊な医療用語を聞くことで恐怖を感じたり、将来起こりうることの予測ができずに不安になったりしています。

ホスピタル・プレイ士(以下、HP士)(※1)は、医療環境における子どもが前向きに、また、主体的に医療経験に向かっていけるよう子どもとご家族をサポートする職種です。



ホスピタル・プレイ士スタッフ

※1：HP士とは院内名称であり、
 ・チャイルド・ライフ・スペシャリスト(米国)
 ・ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(英国)
 ・子ども療養支援士(日本)
 のいずれかの資格を保有しています。

当センターでは、3名のHP士が、日々、子どもやそのご家族と一緒に活動しています。具体的には、心理学、家族学、教育学等の領域からの視点やアプローチを用いてサポートを行います。

例えば、子どもの成長・発達に合わせた教材を用いて手術・検査・処置の説明をしたり、医療経験の振り返りを一緒に行ったりします。医療環境への適応を促すような遊びを取り入れたり、子どもが感情表出できるような機会を作ったりもします。

子ども自身が困難を乗り越えていく力を伸ばせるよう、他の医療スタッフと協働して業務を行うことが重要となっています。地域の医療スタッフの方々とも連携して、よりよい支援に繋がっていけるよう取り組んでいきたいと思っております。

(ホスピタル・プレイ士 長野 友希)



おおうえこども クリニック

〒594-0031
大阪府和泉市伏屋町 3-3-8
エムスコート光明池 1F
TEL:0725-50-5535
http://www.ooe-kids-clinic.com



大植 慎也 院長

当センター通院中の
たくさんのお客さんを
訪問診療して
いただいています。



趣味

走ること。心地よい疲労感で、走った後に気持ち
がリセットされるそうです。

当センターへの要望

外来をしている医師への電話のタイミングに悩
むそうです。ちょっとした伝言の方法があれば
よいとのこと意見をいただきました。

大植先生は、平成26年4月に開業し、子どもの外来診
療を行いながら、訪問診療をされています。

先生は勤務医をされていた頃に在宅医を見つけるの
に苦労したため、今までの経験を最大限いかせる医
療をしたいと考え、在宅医療のクリニックを作ろう、
と思われたそうです。

忙しくても「傾聴すること」「話しやすい雰囲気をつ
くること」をモットーに、患者さん・ご家族に
寄り添う診療を心がけ、診察の時間をとても大切に
されています。

在宅医療ケアの必要な子どもたちが安心して生活
できるようにサポートしていただける、頼れる先生
です。

第9回地域連携懇話会を開催しました

(2017年2月1日)

今回は、地域連携が充実していることで有名なベル
ランド病院より、総合相談センターの業務内容につ
いてご講演いただきました。

地域連携懇話会は、
当センターが提供する
医療やケア、連携方法の
課題を把握し改善すること
を目的に開催しております。

スタッフ一人一人が地域の医療
機関との連携や患者さんの支援
の重要性を認識し取り組んでい
る様子が伝わってきました。

当センターにおいて、すぐに
取り入れることができない取り組み
も多いのですが、まずはできることから行動をおこし
ていく所存です。

診療科 新任部長のご挨拶



新生児科 主任部長
和田 和子

北島先生から新生児科主任部長を
引き継ぎました、和田和子です。
20数年前にも駆け出しの医師として、
母子センターに勤めていました。
気持ちも新たに、精一杯頑張ります。
どうぞよろしくお願いいたします。

退任医師のご連絡 (平成 29年 3月 31日付)

新生児科主任部長 北島 博之

専門看護師の紹介

私は新生児棟(NICU・GCU)に
所属しており、現在は、早産児・
低出生体重児・疾患を抱えた新生
児や乳児と、そのご家族への看護
が活動の中心です。



小児看護専門看護師
吉田 まち子

新生児棟は、入院しているお子さまとそのご家族にとって「人生のはじまり」
「親子・家族のはじまり」の場です。お子さまの生命と安全が守られるのはも
ちろんのこと、「生活の場としての環境、育つ権利や発達の機会は十分に保障
されているか?」「ご家族を十分に理解して、家族のはじまりを支援できてい
るか?」を常に問いながら活動しています。

新生児棟に入院するお子さまの多くは、急性期を脱した後も、養育上の特別
な配慮や在宅医療的ケア、継続的な医療が必要です。経験豊かなスタッフや新
生児集中ケア認定看護師と協働し、入院早期からの在宅移行支援に向けた取り
組みを行っています。また、現在のNICUの課題の一つである「小児医療部門へ
の移行」についても、医師や関連部署と連携した取り組みを開始しています。

関係機関の皆様と協働させていただき、胎児期を含めたお子さまの「生」と「そ
の子らしい育ち」を支えたいと考えております。家庭保育移行や在宅医療移行
に関すること、新生児看護に関する研修など、お気軽にお声掛けいただけまし
たら幸いです。

地域の医療機関の先生方を対象に、下記の日程で、地域医療連携研修会を開催いたします。ぜひご参加ください。なお、研修会終了後ささやかながら情報交換の場をご用意しております。

日時

2017年 6月 3日 (土)
午後 4時 ~ 6時

場所

梅田スカイビル
タワーイースト33階 A会議室
大阪市北区大淀中 1-1

- 1 教育講演 「熱性けいれんとてんかん」
座長 大島 利夫 先生 (ベルランド看護助産専門学校 学校長)
演者 木水 友一 先生 (大阪母子医療センター 小児神経科 診療主任)
- 2 診療科紹介 「小児の形成外科疾患と治療の実際」
座長 大島 利夫 先生 (ベルランド看護助産専門学校 学校長)
演者 吉岡 直人 先生 (大阪母子医療センター 形成外科 主任部長)
- 3 特別講演 「インフルエンザ感染の重症化とインフルエンザ脳症の発症機序、治療に向けた提案」
座長 鈴木 保宏 先生 (大阪母子医療センター 患者支援センター 副センター長)
演者 木戸 博 先生 (徳島大学 先端酵素学研究所 特任教授)

※共催：大阪母子医療センター、エーザイ株式会社

イブニングセミナーのお知らせ (医療関係者対象)

今年度も引き続きイブニングセミナーを開催いたします。
時間：17時30分～18時30分 場所：研究所大会議室
事前申込み：不要 *大阪府医師会生涯教育研修システム1単位に認定されています。

| 日程 | テーマ | 担当部署 | 講演者 |
|----------------|-------------------------|-------------|--------|
| 2017年 6/1 (木) | 小児の心臓病のあれこれ | 小児循環器科 | 高橋 邦彦 |
| 7/5 (水) | 小児の便秘 | 消化器・内分泌科 | 恵谷 ゆり |
| 9/7 (木) | 社会的ハイリスク妊娠 | 産科 | 光田 信明 |
| 10/4 (水) | 小児在宅医療における臨床工学技士の役割 | MEセンター | 澤竹 正浩 |
| 11/1 (水) | 子どものこころの診療の実際～発達障害を中心に～ | 子どものこころの診療科 | 三宅 和佳子 |
| 12/7 (木) | 小児の口腔外科治療 | 口腔外科 | 山西 整 |
| 2018年 1/10 (水) | ここまで手術成績が向上した新生児期開心手術 | 心臓血管外科 | 盤井 成光 |

病院見学ツアー

を実施しています!

参加ご希望の方は事前にご連絡ください。

参加者の ●氏名 ●医療機関名 ●職種 ●人数

連絡先】 患者支援センター ☎0725-55-3113



News

当センターオリジナルキャラクター

モコニャンのLINEスタンプが
販売開始 になりました。

全40種類

日常生活でよく使うスタンプを中心に、
病院で使えるスタンプもあります。
コミュニケーションツールとしてご活用ください。



交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター
〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890 (直通)
FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113 (直通)
FAX：0725-56-7785

医療者対象 ホットライン

(※24時間受付直通)

【PICUホットライン】
☎ 0725-56-1070

【小児がん・
白血病ホットライン】
☎ 0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望は FAXにて患者支援センターにお寄せください。